

週報

2007年 3月 11日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

| | | |
|---------|---|----------|
| 教会学校 | 毎日曜日 | 午前 9:00 |
| 礼拝式 | 毎日曜日 | 午前 10:30 |
| | (聖餐式 第一日曜日) | |
| 夕礼拝式 | 毎日曜日 | 午後 7:00 |
| エステルの会 | 毎日曜日 | 午前 10:30 |
| 聖書研究祈祷会 | 毎水曜日 | 午後 7:00 |
| ホームページ | http://kusanagi.church.jp/ | |

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸

No.2764 2007年 3月11日 (受難節第三主日)

《今朝のみことば》

イエスは答えて言われた、『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある。

ルカによる福音書 4:4

主日礼拝式

| | | |
|-------------|----|-----|
| 司 式 | 宮原 | 清治兄 |
| 説 教 | 村上 | 定幸師 |
| 奏 楽 | 武田 | 桂子姉 |
| 献 金 | 萩沢 | 精二兄 |
| 前 奏 | | 奏楽者 |
| 招 詞 | | 司式者 |
| 讃 詠 | | 一 同 |
| 主の祈り | | 一 同 |
| 交 読 | | 一 同 |
| 祈 禱 | | 司式者 |
| 牧会祈祷 | | 牧 師 |
| 使徒信条 | | 一 同 |
| 讃 美 書 | | 一 同 |
| 聖 書 | | |
| 説 教 | | |
| 献 金 | | |
| 感謝祈祷 | | |
| 頌 栄 | | |
| 祝 禱 | | |
| 後 奏 | | 奏楽者 |
| 報 告 (祈りの課題) | | 司式者 |
| 礼拝祈祷会 | | |

詩篇 66:16~20

新聖歌 60

新聖歌 p.826

交読文 12 (新聖歌 p.838)

新聖歌 p.826

新聖歌 248

『ルカによる福音書』9:18~37

p.101

「人生の価値のために」

新聖歌 55

新聖歌 63

受付・案内 大石

操兄

<礼拝の後、丸山友緒兄記念会を行ないます>

2007年3月11日 礼拝後 (午前11時30分より)

丸山友緒兄 記念会

召天三十周年

司 式 村上 定幸牧師
奏 楽 武田 桂子姉
祈 禱 宮原 清治兄

前 奏 武田 桂子姉
讃 美 新聖歌 231 一 同
祈 り 村上 定幸師
聖 書 『ルカに寄る福音書』 9 : 23 ~ 27
説 教 「守られた人生」 村上 定幸師
讃 美 新聖歌 518 一 同
友緒兄の思い出 桑山 一夫兄
祈 り 宮原 清治兄
頌 栄 新聖歌 63 一 同
終 禱 村上 定幸師
後 奏 武田 桂子姉
挨 拶 丸山 勝江姉

• • •

墓前に向かいます

新約聖書

ルカによる福音書 9章23節~27節

- 9:23 それから、みんなの者に言われた、「だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい。
- 9:24 自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。
- 9:25 人が全世界をもうけても、自分自身を失いまたは損したら、なんの得になろうか。
- 9:26 わたしとわたしの言葉とを恥じる者に対しては、人の子もまた、自分の栄光と、父と聖なる御使との栄光のうちに現れて来るとき、その者を恥じるであろう。
- 9:27 よく聞いておくがよい、神の国を見るまでは、死を味わわない者が、ここに立っている者の中にいる」。

丸山友緒兄の道

大正7年1月24日：静岡県富士郡今泉村72番地に丸山友保、いく夫妻の二男として誕生

昭和5年3月：小学校卒業

昭和10年4月：旧制静岡県立庵原中学校（現清水東高校）卒業と、と同時に日本国鉄沼津駅勤務。その間、日本国鉄道電信教習所（東京）入所。卒業後沼津駅復職、電信課勤務

昭和14年1月：静岡連隊入学、甲種幹部候補生試験合格

昭和18年：陸軍中尉にて除隊と同時に、三菱発動機名古屋に勤務、静岡発動機に青年学校を設立するための準備に努力、静岡発動機に青年学校を設立、教官となる

昭和19年1月10日：丸山勝江と結婚、三菱青年学校小鹿寮居住、寮長を兼務

昭和20年8月15日：終戦のため退職、庵原郡富士川町中之郷若月組職員となるも意伴わず退職

昭和21年10月：現住所清水市梅が岡2-34（前清水市下清水270番地）とする

昭和22年：花の販売を始め、初めて藤浪隆兄、藤浪はな姉とあい信仰に導かれる

昭和26年：若林光義兄のお世話により清水運送（株）入社

昭和49年12月22日：小島光雄牧師より受洗

昭和51年3月：清水運送（株）定年退職、まもなく大東京火災代理店の資格取得後、草薙堀石材店に勤務

昭和52年3月24日：午後2時24分召天（59才）

231

いさおなき われを

[調 21 B]

Just as I am, without one plea
詞：Charles F. Elliott, 1789-1871

WOODWORTH
曲：William B. Bradbur, 1816-1868

い - さ お な - き わ - れ を 血 を - も て あ が ない イエ -
ス ま ね - き た も う - み も と に - わ れ ゆ く - ア - メ ン

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 いさおなきわれを 血をもて贖い イエス招き給う 御許にわれ行く | 4 心の痛手に 頼めるこの身を イエス癒し給う 御許にわれ行く |
| 2 罪 咎の汚れ 洗うによしなし イエス潔め給う 御許にわれ行く | 5 頼りゆく者に 救いと命を イエス誓い給う 御許にわれ行く |
| 3 疑いの波も 恐れの嵐も イエス鎮め給う 御許にわれ行く | 6 いさおなきわれを かくまで憐み イエス愛し給う 御許にわれ行く |

We shall reach the summer land
詞 : Faxon J. Crosser, 1820-1915

DOANE

曲 : Wesley H. Doane, 1832-1915

♩ = 80

きよき岸邊に やがて つきて あまつみに
 ついに のほらん そのひかそえて たまのみかど
 にともも -うからも われをまつらん やがて
 やがて たのしく
 あいなんめで にしもとのと やがて あいなん アーメン

1 きよき岸邊に やがて着きて
 天つ御國に ついに昇らん
 その日数えて 玉の御門に
 友も親族も われを待つらん

(折り返し)

やがて会いなん
 愛でにし者とやがて会いなん

2 愛の光の 消えぬ里に
 絶えし縁を またも繋がん
 消えし星かげ ここに輝き
 失せし望みは ここに得られん

3 親はわが子に 友は友に
 妹背あい会う 父の御許
 雲はあとなく 霧は消え果て
 同じ御安 共に映さん

今日の集会

- ★ 教会学校礼拝、司式：村上師、説教：武田姉
- ★ 礼拝に続いて、「丸山友緒兄召天 30 周年の記念会」を行います。信仰者の生涯を記念しましょう。
- ★ 夕礼拝、聖書『イザヤ書』63：7～14

今週の集会

- ★ 清水朝拝会（火曜日 7：00～）日本福音ルーテル清水教会
- ★ エステルの会：村上師
- ★ 聖書研究祈祷会、説教：大石兄
- ★ 会堂美化：村上師、堀場兄（お花）

次聖日(3月18日)の予定と当番

- ★ 主日礼拝式（受難節第四主日） 成人部会

司式：桑山姉

説教：村上師

奏楽：竹田姉

受付・案内：青木兄

献金：青木姉

聖書：『ルカによる福音書』9：28～36

説教：「天国のありさま」

讃美：讃美歌 310（新聖歌 190）、讃美歌 492、
讃美歌 536

教会学校、司式：村上師、堀場兄

夕礼拝：聖書『コリント人への第二の手紙』

3：4～18

その他の報告・祈祷課題

- ★ 来週はCSに集っている英和女学院2年生の竹田優凜さんが、礼拝奏楽の奉仕をしてくださいます。讃美には讃美歌を使うこととなりますが、この若い姉妹の奉仕を、ともに喜びましょう。
- ★ 4月27日に、教団女性部の総会が大阪で行なわれます。教職、教職夫人、チャイルドケア、信徒会、海外宣教などの沢山の教団・教区の働きとともに、覚えてお祈りください。詳しくは後日報告します。
- ★ 3月21日、CSでは「卒業進級お祝いつどい」をもちます。声をかけて誘いましょう。集合は10時に教会集合です。

今朝の聖書から ルカによる福音書 9:23~27

わたし達は、十字架について良く知っています。神の独り子であったイエス様が、しかも何一つ罪を犯すことをされなかったこの方が、私たち全てが犯した罪の代償として、贖いのために十字架に張り付けにされたという出来事です。ヨハネの第一の手紙 4:7 では“愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。”と、人々が互いに愛し合わなければならないことを勧めています。またこの手紙は“愛さない者は、神を知らない。神は愛である。”とつづけています。すなわち、神様とは何かという答えが愛だ、と言っているのです。これらのことは真実なのです。神様の、誰も経験したことのないほどの愛を、十字架は物語っているのです。私たちはとにかく“愛するということはわたしだっただけ知っているし行なっている、家族を大切に、友人を大切にもしている”と自信を持っていうことの多いものなのです。しかしまたこの“愛”が、身近な人に対するものであればあるほど、大きな傷を残す結果に終わっていることも知っています。親子喧嘩、兄弟喧嘩、不安と恐怖、その他、限りがないでしょう。“愛する”と自信を持っている人は何と答えるでしょう。“私にかぎってはそのようなことをしない”、“自信があるし、家族を守っている”と答えるでしょうか。しかし数々の不幸を経験するとき、神を見失い教会と聖書から離れて行くのです。神様がわからなくなるのです。ここに十字架があるのではないのでしょうか。“自分の十字架を背負って、イエス様に従いなさい”とおっしゃっているのもそのためです。父や母に対する愛も、自力では解決できない問題に出会ったとき、イエス様に信頼しなければ解決できない、愛という力を与えられるのです。今朝の 9:24 に“自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。”とあります。これは真実です。私たちは自身の救いのための力を、自身に求めるのではなく、イエス様からいただくのです。私たちに、“背負いなさい”と言われた十字架を背負ってくださったのも、実はイエス様なのです。“自分の救の達成に努めなさい。(ピリピ 2:12)”、いう御声に応えるのが教会なのです。